

「朱漆三巴文盆」修理報告

佐久本純¹ 室瀬智弥² 鷲野谷一平³ 鄭守高⁴ 松本達弥⁵

はじめに

本作品は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵の「朱漆三巴文盆」である。令和4年5月11日から令和5年3月31日まで3年次にわたり株式会社目白漆芸文化財研究所で修理を行った。修理にあたり担当職員を佐久本純とし、総括責任者及び修理責任者を室瀬智弥、管理技術者を鷲野谷一平、修理担当者を鄭守高、技術監修を松本達弥が担った。

I. 名 称

朱漆三巴文盆 一枚

II. 概 要

木製漆塗り。木地は柾目材を轆轤引きした一木造り。見込みは朱漆塗り、中央に透漆で三つ巴文を描く。三つ巴文部分には、所々に金色が見られる。罎内側から高台外までは、黒漆を塗り箔梨子地とする。高台内は黒漆塗りだが、一部茶褐色に塗られている箇所があり、僅かに「真南風御物」の文字が読みとれる(図2)。

法量 (c m) : 高さ 6.7 径 41.3



図 1 作品全景 表面(修理前)



図 2 作品全景 裏面(修理前)

¹ 一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究所 琉球文化財研究室 研究員

² 株式会社 目白漆芸文化財研究所 代表取締役

³ 株式会社 目白漆芸文化財研究所 修理主任

⁴ 株式会社 目白漆芸文化財研究所 修理技術者

⁵ 東京藝術大学 大学院美術研究科文化財保存学専攻 保存修復工芸研究室 非常勤講師

III. 修理前状態

火災の影響により、薄葉紙が貼り付いた箇所や漆塗表面に、シミ状の跡や紙繊維の残存が見られた(図 3)。三巴文の表面には、所々に白い細粒の付着物と金色が見られた(図 4、5)。紫外線や火災の影響により漆塗膜が劣化していた(図 6)。木地収縮により、総体に反りが生じ高台が安定して着地できない状態であった(図 7)。また、反りの影響で見込みや鏝の内外側に塗膜の亀裂が生じていた(図 8)。鏝の一部には過去の修理跡がみられた(図 9)。高台内には、「真南風御物」の文字の痕跡を確認した(図 10)。



図 3 塗膜表面のシミ汚れ

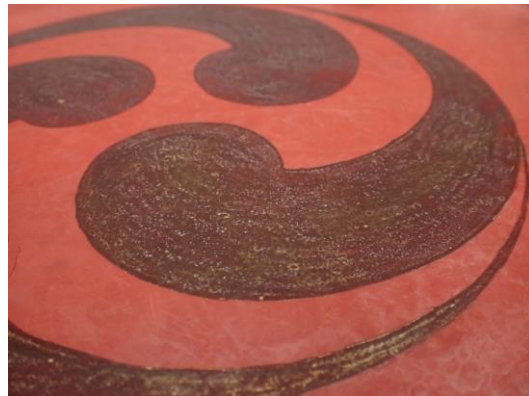


図 4 白色物質

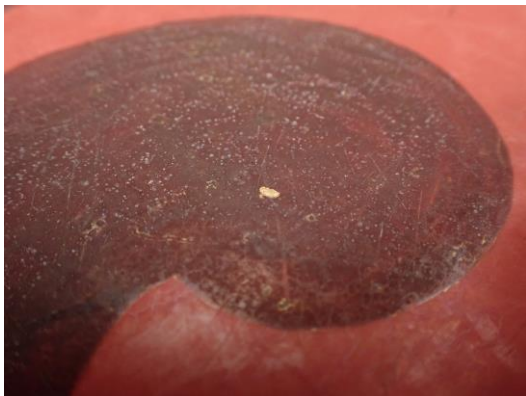


図 5 三巴文の金色部分



図 6 朱漆の劣化



図 7 器体の反り



図 8 亀裂



図 9 過去の修理跡



図 10 高台内「真南風御物」の文字

IV. 修理方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修理に則り、現状保存修理を原則として行う。環境の変化による作品への負担を軽減するため、搬入後および修理完了後は、環境の安定した収蔵庫内に保管し状態観察を行う。修理を始める際は、十分に事前の調査を行い、傷みの現状を確認した上で修理作業工程を決定する。修理中は、写真撮影を伴った作業記録を取り、修理箇所の比較ができるようにする。修理の完了時には、修理作業内容をまとめ、報告書を作成し提出する。なお、修理作業中に、当初の計画にない仕様の変更や追加の処置が必要となった場合は、速やかに所蔵者に報告を行い、該当箇所について関係各位と検討・協議を行う。検討・協議の結果、変更が必要と判断された場合は、変更の手続きを行う。

本作品は使用された材料や素材の同定、傷みの現状の把握を目的として、科学分析調査を行う。分析調査は、独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所の協力を得て行う。

V. 修理報告

<①修理前記録・撮影>

修理作業に入る前に蛍光 X 線分析調査を行った。蛍光 X 線分析調査は、独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所の早川泰弘¹氏に依頼し、目白漆芸文化財研究所修理室にて実施した(図 11)。分析調査の結果については、別添資料²を参照。

分析調査終了後、修理後との比較ができるよう作品の全景および部分の写真撮影を行った。また、損傷状態を調査記録し、修理作業工程の確認を行った。



図 11 蛍光 X 線分析調査

¹ 独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所 無形文化遺産部部長兼副所長(令和 4 年時)

² 別添資料「首里城被災琉球漆器の蛍光 X 線分析結果」

<②設置台製作等準備>

作品を安定させて安全に作業を行うため、作品の形状に合わせた設置台を製作した(図 12、13)。また、押さえに使用する心張り用の木枠や材料の準備も行った。



図 12 設置台



図 13 設置台(設置時)

<③養生・クリーニング>

クリーニング作業前に剥落の恐れがある損傷箇所へ養生を行った。損傷箇所に小さく短冊状に切った雁皮紙を、精製水で粘度を調整した糊で貼り剥落防止の養生をした(図 14)。漆塗膜表面の埃を毛棒で払い落とし、精製水を使用してクリーニングを行ったが、精製水のみでは汚れを取りきることが難しかったため、重曹水を用いたクリーニングを試みた³。重曹水を僅かに含ませた木綿布や綿棒を用いて柔らかくした汚れを、エタノールを使用して拭き取った(図 15、16)。

巴文部分の白色の付着物は、東京文化財研究所の倉島玲央⁴氏の協力を得て分析調査を行った。走査型電子顕微鏡による分析調査の結果、付着物はカルシウム由来であることが判明した⁵。付着物について所蔵者と協議を行い、除去することが決定した。付着物は精製水で除去が可能だったため、精製水を僅か含ませた木綿布で拭き取った(図 17)。



図 14 養生



図 15 重曹水によるクリーニング

³ 令和 4 年 6 月 15 日の会議にて琉球漆工藝舎の土井菜々子氏より、紙繊維・シミ状の汚れには重曹水が有効との報告があったため、使用した。土井氏の報告を参考に 3～5 w/v%濃度の重曹水を、紙繊維・固着汚れの状態に応じて適宜使用した。

⁴ 独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所 保存科学研究センター 研究員(令和 4 年時)

⁵ 別添資料「朱漆三巴文盆に付着した白色物質の分析結果」



図 16 重曹水によるクリーニング

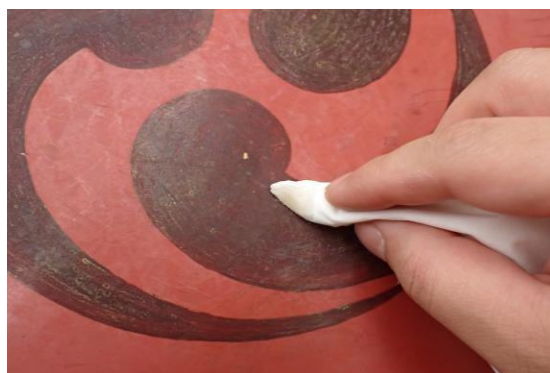


図 17 巴文部分のクリーニング

<④付着物除去>

鍔外側に見られた紙繊維の付着やシミ状の跡は、精製水やエタノール水溶液では、取り除くことが難しかったため、微細粉末⁶を用いて除去した。僅かに水分と微細粉末を含ませた綿棒で除去を行いながら、周辺と質感を馴染ませるように仕上げた（図 18）。



図 18 付着物の除去

<⑤麦漆含浸>

亀裂などの損傷箇所は、構造の安定と補強のため麦漆の含浸を行った。亀裂の状態に応じ、溶剤⁷で麦漆⁸の希釈濃度を適宜調整し、数回に分けて含浸を行った（図 19）。十分に麦漆を含浸させた後、表面の余分な漆は拭き取り乾固させた。



図 19 麦漆含浸

⁶ 角粉や磨き粉(三和製)を適宜使用した。

⁷ 鉱物性揮発油のペトロールを使用。本修理において溶剤と表記するものはペトロールを使用している。

⁸ 精製水で水練りした小麦粉に、生正味漆を混ぜ合わせたもの。

<⑥塗膜押さえ>

塗膜の剥離箇所は、押さえを行い安定させた。押さえには、溶剤で希釈した麦漆を使用した。剥離箇所の状態に応じて、麦漆の希釈濃度を適宜調整し、筆等を用いて剥離塗膜の際より数回に分けて含浸を行った(図 20)。その後、表面に残った余分な麦漆は丁寧に拭き取り、心張り法⁹を用いて剥離箇所を圧着安定させた(図 21)。



図 20 麦漆含浸



図 21 心張り

<⑦下地付け>

打損により塗膜を欠失した損傷箇所には、漆下地¹⁰を施す下地付けを行った。下地付けは、損傷の度合いに応じて混合する地の粉の粒子を適宜変えて行った(図 22)。下地が乾固した後、砥石等を用いて下地表面を整えた。下地付け、乾固、表面調整の一連の作業を数回繰り返し、損傷箇所に下地が適切に施されたことを確認した後、下地表面の漆固めを行った。

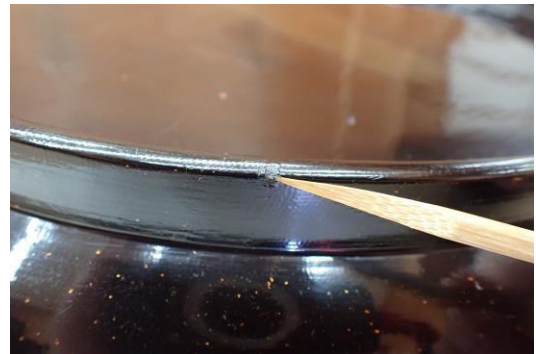


図 22 下地付け

<⑧錆付け>

処置を施した損傷部分は、僅かながら塗膜際に段差が生じ、取り扱い時の触手等で損傷を招く恐れがある。損傷防止のため、塗膜際として錆漆¹¹を施す錆付けを行った(図 23)。

見込み部分の亀裂は、亀裂周りの朱漆面に錆漆が付くことで黒く目立つ恐れがあったため、麦漆の含浸を複数回施して充填を行った。



図 23 錆付け

⁹ 木枠の中に作品を設置し、竹ひごの弾力を利用して貝や塗膜の剥離を押さえ圧着する方法。

¹⁰ 精製水を含ませた地の粉に生正味漆を混ぜ合わせたもの。

¹¹ 精製水を含ませた砥の粉に生正味漆を混ぜ合わせたもの。

<⑨漆固め・塗膜肌の調整>

経年や火災時の環境により劣化した漆塗膜は漆固めを行った。表面は、素黒目漆 9:生正味漆 1 の割合で調合した漆、裏面は生正味漆を使用した。塗布する際は、溶剤で希釈して刷毛を用いた(図 24)。塗布後、塗膜表面に漆が残らないよう丁寧に拭き取り、乾固させた(図 25)。



図 24 漆固め



図 25 拭き取り

<⑩修理後記録撮影・報告書作成>

修理作業完了後に作品全体と修理箇所の写真撮影を行った。また、修理記録をまとめ修理完了報告書を作成した。

VI. 修理工程

- ①修理前記録・撮影
- ②設置台製作
- ③養生・クリーニング
- ④付着物除去
- ⑤麦漆含浸
- ⑥塗膜押さえ
- ⑦下地付け
- ⑧錆付け
- ⑨漆固め・塗膜肌の調整
- ⑩修理後記録撮影・報告書作成

VII. 修理工期

令和4年5月11日 ～ 令和5年3月31日

VIII. 修理場所

株式会社 目白漆芸文化財研究所 修理室(東京都新宿区下落合 4-23-5)

No.445 朱漆三巴文盆 修理前後比較写真

全景

修理前



修理後



修理前

修理後

部分



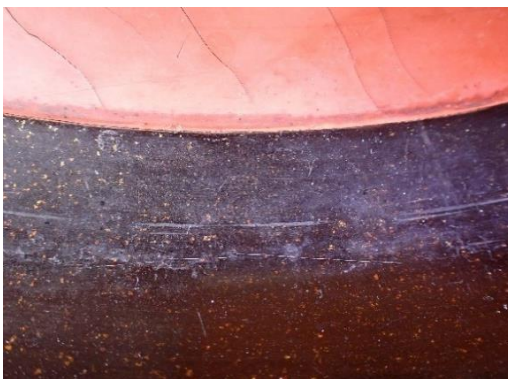
付着物除去



クリーニング



クリーニング



クリーニング

修理前

修理後

部分



塗膜押さえ



クリーニング



クリーニング



打損部分処置